

1水, 2木, 9木, 10金, 24金

聖書の人々 永井 学院長

聖書に登場する人物（預言者や士師、王など）それぞれの歩みや、神との関係などを考察し、信仰者としての在り方を学びます。



講義

4火 仙台ゴスペル・フェスティバル

昨年15周年という節目を迎えた仙台ゴスペル・フェスティバル。今後も、この機会を通して、多くの方に本当のゴスペル=福音が届けられ、イエス・キリストに出会う事が出来ますよう、お祈り頂ければ幸いです。

15水, 16木

ヨハネの福音書 蟹田 寛師

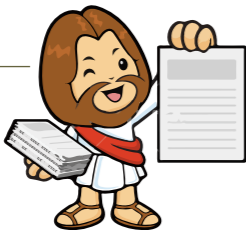
四つの福音書のうち、他の共観福音書と呼ばれる三つの福音書とは、一線を画す「ヨハネの福音書」について学びます。



講義

3火～6金 伝道実践

近隣の町でのトラクト等の配布や訪問伝道、関係づくりなどを行います。その他、伝道ライブなども行います。



Column 学院長のデスクから

寒さが少しずつですが、厳しくなってきました。皆さまはいかがお過ごしでしょうか？このマグニファイ紙でも報告しておりますが、東日本大震災以降、拡大宣教学院では被災地での支援活動を毎月展開しております。6年半以上も経過していますが、まだまだ特に仮設住宅での活動が必要だと受けとめ、学生たちを中心に継続しています。

また、卒業生らによる被災地での開拓の働きも今年4月から始まっています。必要を満たすだけではなく、一人でも多くの方々に良い知らせをお届けするために用いられますよう、これらの働きのためにお祈りください。

2018年4月からの入学生の募集をしております。（拡大宣教学院理事会では、12人の学院生を目標に祈っています。）このためにも皆さまのご協力、ご加禱をよろしくお願いいたします。

私たちの心が宣教への情熱に燃やされますように！



学院長 永井信義

編集後記

前回に続き、またまた皆さんにお詫びしたい事があります。前回（No.350/10月号）の編集後記で私は、「ゴスペルタウンまつり」での祝福のなかから「夢を語る」という事についてシェアさせて頂きました。そのなかで「地元いわきでクリスチャン仲間と一緒にカフェを開く計画があり、……」という件がありましたが、この話は、もう10年位前のことで、そう書いたつもりでした。しかし、後から自分で読み返した際に、これは現在進行形の事だと誤解される可能性が大いにあると感じ、実際にそのように受け取った方もおられました。そうすると、きっと他にも、そう受け取った方がいると思ったので、この場を借りて、弁解とお詫びをさせて頂きたいと思いました。言葉足らずで誤解を招いてしまい、申し訳ありませんでした。

ついでに、良い機会なので、この事について少しお証しさせて頂くと……私には、教会の他にも救われるきっかけとなった場所がありました。そこは宣教師が開いていたコーヒーハウスで、いわき市内の色々な教会のクリスチャンが集まる、交わりの場でした。私は、その交わりのなかでイエス様の愛に触れ、イエス様と出会い、救いへと導かれました。（実は、妻と出会ったのも、この場所です。）

私は、間もなくそこのスタッフとして仕え始めました。この働きが自分に与えられたミニストリーかとも思いました。翌年、宣教師が帰国する際に、こういった教会に行くきっかけ、イエス様と出会うきっかけとなる場所の必要性を感じていたクリスチャン仲間と共に、その意志を受け継ぎ、未信者の方が、より来やすいカフェを開く計画をスタートしました。それが、前回の編集後記にあった話です。

そのカフェの名前は「Lighthouse（灯台）」です。灯台の灯りのように世を光で照らし、暗い世にあっても光ある場所になれるように、そんな祈りを込めた名前です。もう、「Lighthouse」というカフェはありませんが、今は私自身が、「世界の光」として、「光の子」として、主の愛の光りを輝かせる存在でありたいと願っています。

Editor's Note



Kakudai Mission Institute No.351

Magnify

拡大宣教学院 機関紙 マグニファイ



模範になりなさい

イエス・キリスト福音の群 東北中央教会 牧師 永井 信義 師



年が若いからといって、だれにも軽く見られないようにしなさい。かえって、ことばにも、態度にも、愛にも、信仰にも、純潔にも信者の模範になりなさい。

（テモテへの手紙第一 4章12節）

パウロは「私のように歩んでください、生きてください」と言うことができた人物でした。「お願いします。兄弟たち。私のようになってください。」（ガラテヤ 4：12）「兄弟たち。

私を見ならう者になってください。また、あなたがたと同じようになってください。また、あなたがたと同じように私たちを手本としている人たちに、目を留めてください。」（ピリピ 3：17）

さらにパウロは彼の愛弟子であり、若いリーダーであったテモテに「信者の模範になりなさい」と勧めています。テモテがパウロにならうだけでなく、自らがまわりにいるキリスト者たちのために良きモデルとなれ、と命じているのです。

そして、この言葉はすべてのキリスト者に対する命令でもあります。「模範となること」は信仰生活のオプションではないのです。勿論、私たちは人に見せるために信仰生活を送っているわけではありませんが、積極的に「手本」となることを求められているのです。

良き模範となるためにはどうしても成長し続けることが必要です。成熟が手本には求められるのです。

成長、成熟もキリスト者にとってオプションではありません。「完全におとなに」（エペソ 4：13）なり、「あらゆる点において成長」（同 15 節）することを、神は信じる者に望んでおられるのです。

「キリストはありのままの私たちを受け入れるが、キリストが私たちを受け入れると、私たちはありのままではいられなくなってしまふ」とトロピッシュは言っていますが、神は私たちをいつも無条件で受け入れ続けてくださいます。しかし、神の恵みは絶えず私たちを成長へと導きます。成熟への道を歩ませるのです。

『たいせつなきみに』の著者マックス・ルケードはこのことを次のように語っています。「主イエスはあなたをありのまま受け入れて下さるが、

決してあなたをありのままの姿で放っておかない。あなたが主イエスのようになることを求めておられる。」

成長していくためにまず、成長への願いを持つことが必要です。つまり、自分には足りないところがあることを認め、神に成長を求めていくのです。

パウロは信仰面だけでなく、生活の全領域で模範となることを命じています。教会の中だけでなく、日常生活でも手本となることが求められているということが出来るでしょう。

「ことば」において模範となるためには、心の中からの変革が必要です。主イエスが「口から出るものは、心から出て来ます」（マタイ 15：18）と言われるとおりだからです。これは「態度」にも共通して言えることだと思います。

「愛」の手本となるためには、「人知をはるかに越えたキリストの愛」（エペソ 3：19）を知ること、私たちに注がれている神の愛がどのようなものであるか、「その広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるか」（同18節）の理解を深めていくことが不可欠です。

「純潔」、つまり、ピュアであることは現代社会に生きるキリスト者が決して忘れてはならないことです。日々、神のきよさに与かることは、キリスト者が「純潔」に生きることを可能にします。

フィリップ・ヤンシーは彼の著書『だれも知らなかった恵み』の中で次のように成熟について語っています。「霊的成熟の証明は、今どれほど『きよい』かではなく、どれほど自分の不純さを自覚しているかどうかである。その自覚こそが恵みへの扉を開くのだ。……正しい行いでもきよさでもなく、悔い改めこそが恵みに至る道である。そして、罪の反対は美徳ではなく、恵みなのである。」

最後に、神は求める者を必ず成長へと導いてくださいます。「あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださる」（ピリピ 1：6）という神の言葉の上に堅く立って、成熟の道を歩み続ける者でありたいと心から願います。

CONTENTS

巻頭メッセージ
模範になりなさい
永井 信義 師

集会スナップ
2017 年後期始業式

BOOK あらかると

ザ・スポットライト
一年を振り返って
第26期生 掛端 舞子
東海林 悦子

2017 Late Stage Opening Ceremony

2017年度後期始業式



10
10
Tuesday



メッセージ 永井 信義 学院長

Encouragement by The School Directors

学院理事の先生方お一人お一人による
奨励の言葉を頂戴致しました。



聖愛基督福音教会
森本 志人 牧師



ゴスペルチャーチ北上
蟹田 寛 牧師



茨木キリスト福音教会
永井 基呼 牧師



延岡東海教会
田崎 敏明 牧師

Praise and Worship



共に祈り、共に賛美し、共に礼拝を捧げました。

学生の祝福を、ご出席された先生方に
祈って頂きました。



Blessing Prayer

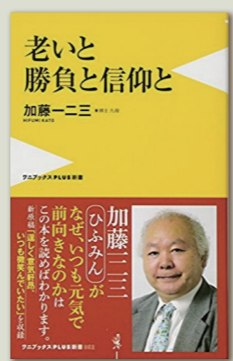


BOOK あらかると

永井 信義

少し前の本（今年装いも新たに出版されました）ですが、将棋界を引退された、テレビなどで人気者の、加藤一二三さんの『老いと勝負と信仰と』（ワニブックス）を紹介します。

加藤さんは「元祖天才将棋棋士」として知られていますが、今、最も有名なクリスチャンの一人でしょう。本書では、彼の信仰がいかにその生き方に影響を与えているのかが記されています。将棋についても書かれていますが、聖書からの引用も多く、まさに加藤さんの証の書と言えると思います。



ザ・スポットライト Vol.1

このコーナーでは、毎回誰かにスポットを当てて、学院での様々な事をレポートして頂きます。初回は、下記テーマでレポートして頂きました。

一年を振り返って

第26期生
掛端 舞子さん
東海林 悦子さん



掛端 舞子さん 10月10日（火）に後期始業式を迎え、1年間の学びが神様に守られたことに感謝致しました。また、日々の皆さまのお祈りの支えに感謝致します。

入学してからこの1年、私にとって生涯忘れられないといっても過言ではない年となりました。長い間、社会人として化粧品会社の組織のなかで、仕事をしながら続けてきたキリスト者生活と、そういった社会から離れ、更に共同生活をしながら学生としてのキリスト者生活との違いに慣れる事に1年かかりました。

入学後一か月後頃、奉仕をしている時に、ふと「自分はいったい何者なんだろう」と、今まで考えた事もない思いが雷の音のように内側に響きました。長年、会社のブランドの名前と、組織の中のポジションの肩書の中で生きてきて、それが空っぽになった実感に漠然としていました。また、学院生、寮生活では、今までほぼ、接する機会がなかったタイプの方々を、見事にバリエーション豊かに神様が備えておられました。私の霊・肉の幅を広げる訓練の備えと受け取りました。

そして数か月後、私が学びたい事や見たい事と、神様が私に学ばせたい事、見せたい事の大きな違いに気づかされました。

「わたしは、高く聖なる所に住み、心砕かれて、へりくだった人とともに住む。」（イザヤ57・15）神様は、私の内側の「自我・プライドの暗闇」を痛いほど見せて下さいました。その期間は、苦しかったです。自分のなかの世的な考え方や価値観から、御国の考え方、価値観に真剣に向き合い、変わって欲しいと願っておられると受け取りました。それは、今も尚続いています。「自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は、わたしにふさわしい者ではありません。」（マタイ 10:38）これからも、主と共に歩む喜びと、イエス・キリストの似姿に変えられていくプロセスに感謝をもって信仰のレースを忍耐を持って走り続けたいと思います。神様の恵みと憐みに感謝致します。

東海林 悦子さん 拡大宣教学院に入学して、1年が経ちました。神学生となって、この1年間いろいろな経験をさせて頂きました。聖書の学びはもちろんですが、奉仕では、屋根の上に登って雨どいの掃除、広い敷地内の雪掻き、電動のこぎりで暖炉用の藁を切ったり、草刈り機での草刈り、真夏の炎天下の中でのトラクト配りなど……初めてだらけの1年でした。

家庭と学びの両立は予想していた以上に大変で、子育ての真ただ中の今、どうして踏み出してしまったのだろうと後悔してしまう時もありました。でも、自分の力ではどうすることも出来ない時期だからこそ、自分の弱さを知り、打ち砕かれ、全てを主に委ねて、寄り頼んで生きる。そして仕える。その為の訓練を与えてくださったのだと、今は、このような機会を下された主に心から感謝しています。

リビングバイブルのIIテモテ 4:2には「どんな時にも、神のことばを熱心に伝えなさい。機会があろうとなかろうと、都合が良からうと悪からうと、しっかりやりなさい」とあります。神様から目を離し、自分の状況を見てつぶやくのをやめて、どんな時でも、生きている間中ずっと、神のことばを宣傳伝えていく者へと変えられていきたいです。

この1年間で何度も何度も思わされたことは、「主は良いお方である」ということでした。どんな時にも私を見離すことなく、力強く、そしてとても優しく私に愛を注ぎ続けてくださるお方。2年目もすべてを主に委ね、御言葉を慕い求め、祈り、賛美しつつ歩んでいきたいです。

私たちが家族の歩みを祈り支えてくださっている神の家族に感謝します。素晴らしい麗しい主の御名をほめたたえます！

